

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 9/15 }
令和元年(2019年)
No.2262

みんなで心を
つなげてトライ!

毎週日曜日の練習をいつも待ちわびていたという小学校時代から今まで、ラグビー一筋。今夏にはユニバーシアード夏季競技大会で、日本ラグビー界初となる世界大会での金メダル獲得に大きく貢献したのが、杉並区出身の平野優芽さん。一つのことを貫き通せる強さは、どこにあるのでしょうか。ラグビーの魅力が東京オリンピックへ向けた意気込みとともに語っていただきました。



特集



すぎなみピト

女子セブンズ日本代表
平野 優芽

Contents — 主な記事 —

7 | 杉並区農福連携農園の利用団体の募集 9 | 杉並清掃工場環境フェア2019 16 | 秋の全国交通安全運動 阿佐谷ジャズストリート2019

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



どのチームよりも強い気持ちで練習に 励み、仲間と夢をつかみたい。

世界大会で優勝。強さの秘訣はチームワーク

—ユニバーシアード夏季競技大会(*)で優勝した時はどんな気持ちでしたか？
想像していたよりも、あっさりとした気持ちだったのが意外でした。でも、優勝して金メダルを取ることを目標に仲間と練習に励んできたので、目標を達成できたことはとてもうれしかったです。

※国際大学スポーツ連盟が主催する、学生を対象にした国際総合競技大会。2年に1度開催。

—優勝を勝ち取れた理由、チームの強さはどこにあると思いますか？

私たちセブンズ(7人制ラグビー)の日本代表チームの強さは、選手それぞれの持ち味、個性を生かしたプレーができているところにあると思います。もう一つは、チームワークの強さでしょうか。ほかの競技に比べて競技人口がそれほど多くないので、ほとんどのチームメイトが子どもの頃からラグビーを通して知っている間柄です。だから、言葉を交わさなくてもお互いの考えを感じ合い、伝え合うことができるのが強みだと思います。

—チームの絆の強さが強さの秘訣なのですね。

みんなサバサバとした性格で、チームのために元気を出して明るく頑張ろう！というムードを全員で作ることができています。練習以外の時間はラグビーの話はほとんどなく、和気あいあいとおしゃべりしていますが、いざ練習になるとスイッチが入り、表情も変わります。メリハリのあるチームです。

ラグビーは「気持ちの連鎖」が感じられるスポーツ

—平野さん自身は、どんな特長を持つラグビー選手ですか？

私が得意としているのは「ステップ」です。「ステップ」というのは、



簡単に言うと「走り方」のこと。状況に合わせて、方向や速度を変えるなどステップを使い分けながら、相手を抜きます。私のポジションは、大きな体を生かしてボール争奪に体を張るフォワードと、ボールを持って走るバックスのちょうど中間に位置するところ。味方が走るスペースを確保する役目であり、自分がスペースを見つけて走る役目でもあります。ゲームを作ることを任されているポジションなので、いろいろなことを自分の判断で仕掛けていけるのがとても楽しいです。

—ラグビーの面白さや魅力は、どんなところだと思いますか？

セブンズに限らず、ラグビーは「気持ちの連鎖」がすごく生きているスポーツなんです。1人の頑張りで絶対には絶対に勝てません。チームのために、仲間のために、それぞれが体を張る。どんなに厳しい場面でもみんなまで動き、ボールをつなげてトライを取りに行く。そういう気持ちの連鎖を感じられるのが、観戦している人にとっても面白いところだと思います。私がプレーヤーとしてラグビーに長年惹かれ続けている理由でもあります。

interview

すぎなみビト × 平野 優芽

プロフィール：平野優芽(ひらの・ゆめ)平成12年杉並区生まれ。日本体育大学ラグビー部女子所属。女子セブンズ日本代表。小学1年生で杉並ラグビースクールに加入し、ラグビーを始める。女子セブンズのチームRugirl-7での活躍などを経て日本代表チームに選出。平成30年にアジア競技大会にて初の金メダル、令和元年のユニバーシアード夏季競技大会では主将を務め、世界大会における日本ラグビー界初の金メダル獲得に貢献した。



日曜日のラグビーが楽しみでしうがなかった小学校時代

—平野さんは、どんな小学生でしたか？

今と変わらず、小さい頃から負けず嫌いな子どもでした。活発で、遊びといってもキャッチボールなど運動ばかり。祖父も父もラグビーをやっていたので、物心がついた時にはラグビー場へ行くのが自然なことで、試合を見て興奮していた記憶があります。そして、小学1年生の時に、杉並ラグビースクールに加入し、自分でもプレーするようになりました。

—小学生でラグビーの道へ。練習はつらくなかったですか？

それが、全くつらくなかったです。スクールは週1日、日曜日だけだったので、むしろ日曜日が楽しみでしうがなかったです。学校の友達が週末に買い物や遊びに行くのを楽しみにしているのと同じで、私は週末のラグビーがすごく待ち遠しくて。始めた頃から「いつか日本代表選手になるんだ」と、なんとなくですが思い描いていました。ラグビーが大好きで、中学校でバスケットボール部に入ったのも、ラグビーに生かせることがあると思ったからです。中学校の途中からはRugirl-7(ラグールセブン)というセブンズの大人のチームに入り、若手の代表育成の機会も得て、だんだんラグビー漬けの生活になっていきました。



7人制ラグビーの楽しみ方

ラグビーといえば、1チーム15人で前後半40分ずつ、体と体がぶつかり合うイメージかもしれませんが。7人制ラグビーはどうでしょうか？

Q1. 試合時間はどのくらい？

試合時間は前後半7分ずつ、ハーフタイムは2分以内です。大会では1日に2・3試合を行いますのでたくさんの試合が見られます。

Q2.グラウンドの大きさはどのくらい？

15人制と同じく、100m×70mです。7人でその広さをカバーするため、選手の機動力が大事です。(運動量は15人制の4倍！というデータもあり)

Q3. 見どころはどういったところ？

15人制に比べてトライ数が多く、得点が入りやすいところです。相手のディフェンスラインを抜いたら、トライに結びつくため、スピードのある選手が有利です。また、7人対7人と、選手の密集が少ないため、選手一人一人の動きが分かりやすく、観戦を楽しめると思います。



試合展開が早くて、スピード感を感じられるよ！



厳しい練習も、ラグビーが大好きだから頑張れる

—ラグビーの他に、何か好きなことはありますか？

「趣味は何ですか？」と聞かれると本当に困ってしまうくらい、ラグビー以外に好きなことが思い付かなくて(笑)。趣味もラグビー。だから、練習がない休みの日はすることがなくて、いつもゴロゴロしながら過ごしています。もちろん、練習がキツイなあと思う時も、うまくプレーできなくて嫌になる時もありますが、ラグビーをやめたいと思ったことは、今まで一度もないんです。

—しんどくなった時、思うようにできない時は、どうやって乗り越えてきたのですか？

乗り越えてこられた理由の一つ、ラグビーが大好きだという気持ちがあるからだと思います。好きでなければ、続けられないと思います。私がラグビーを好きなのは、チームみんながそれぞれのために頑張るといふ要素があるから。だから練習がキツくても、頑張っているチームメイトがいると思うと、自分も「よし、頑張るぞ」という気持ちになれるんです。

—「好き」という気持ちが、原動力になっているのですね。

結局は「好き」という気持ちが、何かを続けていく時には一番大事なものではないでしょうか。心から本当に好きなことなら、きっと頑張れます。私自身がそうでした。だから、今夢中になる何かがある、大好きなことがあるというのなら、その気持ちをどうか大切にしてほしいです。

—東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会という目標も、一つの力になっていますか？

もちろん、そこに向かって突き進んでいます。チームワークが重要な競技なので、自分1人でも弱気になったら勝てません。トレーナーやコーチとも何でも話せる間柄ですので、時には厳しい言葉もあり、落ち込んでいる時には励ましの言葉もあり、そういった叱咤激励に背中を押されながら、日々練習に向かっていきます。今はまだ世界ランキングが10位以下。でも、「だからメダルには届かない」とは思われたくない。どのチームよりも強い気持ちで世界一の練習をして、金メダルを取りに行きます。ぜひ、皆さんも応援してください！

YouTubeで配信中！

広報紙には掲載していない貴重なお話を紹介しています。ぜひお楽しみください。

すぎなみビト MOVIE

「平野優芽さん」のすぎなみビトのインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。



杉並区公式チャンネル